

経営資料

放射線防護測定分野は、安全面で最も重要な要素の1つであるため、厳格な法的規制の対象となります。法的に規定された規制値へ準拠しているかどうかの証明から、予測不可能で異常な放射線被ばくの警報警告にまで及びます。これには信頼性の高い測定および評価用の機器が必須です。そうした面に最適な製品を提供しております。

その他、食品の放射能測定装置を取り扱ってきました。全国の小中学校で、給食の安全性を確かめるために使用されています。東日本大震災での福島第一原発事故の発生後、非常に需要が高まり、これまでに約1000台を納入してきました。給食のたびに日常的に使うものなので、誰でも簡単に操作できる作りとなっています。

さらに新型コロナウイルスの感染拡大の中で、抗体検査キットの取り扱いを始めました。こちらは兼ねてからお付き合いがあった日本国内メーカーの開発製造品で、弊社が販売を担当させていただいております。非常にニーズも高くなっています。

また、そのメーカーではウイルスの有無を直接検査出来る抗原検査キットの開発がほぼ終了しており、そちらも近々に販売開始予定です。

ドイツ本社以外では、どのような国の製品を取り扱っているのでしょうか。

アメリカ、イギリス、イスラエル、オーストリア、スイス、ニュージーランドなど様々です。もちろん1つの国の中でもいくつかの企業と取引があります。弊社が様々な企業の製品を扱うことは本社の方もコンセンサスがとれていて、ドイツの他社製品も扱います。またお客様の方で見つけた海外製品を購入したい場合に、輸入代行をリクエストされることもあります。

弊社としての最優先事項は、常にお客様のニーズに応じ、フレキシブルな対応で新しいテクノロジーや情報を提供していく事だと思っています。

現在の売上は、ベルトールド社製品がおよそ半分、残りが他社の製品となっています。

創業の経緯や、これまでの歩みをお聞かせください。

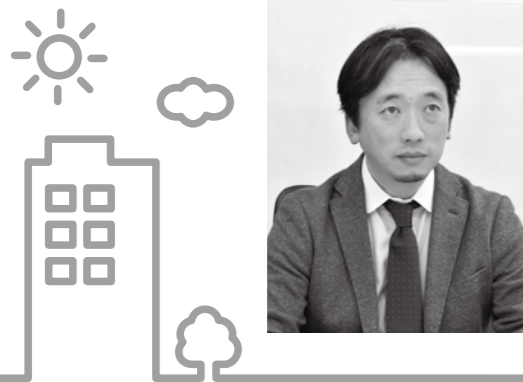
創業者の初代社長はもともと商社に勤務していて、その時に取り扱っていたベルトールド・テクノロジー社製品の販売権利を取得して、弊社を設立しました。当初は、薄層クロマト、電気泳動サンプル用のデンシトメーター、およびラジオアイソトープ薄層スキャナーが主要製品だったそうです。その頃は近年ほど規制が厳しくなく、各研究室レベルでラジオアイソトープが使用されていたことがあり、販売は好調だったようです。

やがて規制が強化され、ラジオアイソトープを利用した研究は沈静化し始めました。その時代の変遷の中で、

経営資料

No.145 会社訪問

代表取締役 吉田 忠嗣 氏



ベルトールドジャパン株式会社

会社プロフィール  
 代表者：代表取締役 吉田 忠嗣  
 本社：〒111-0052 東京都台東区柳橋 1-26-6 サンブリッジビル 2F  
 TEL：03-5825-3557（代表） FAX：03-5825-3558  
 大阪営業所：〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 1-4-25 NLC 新大阪 12号館 4F  
 TEL：06-6393-5551 FAX：06-6393-3331  
 設立：昭和62年8月25日  
 資本金：1,000万円  
 従業員：12名  
 事業内容：バイオテクノロジー関連機器及び試薬、放射線測定機器、森林計測機器の輸出入と販売  
 URL：https://www.berthold-jp.com

聞き手：野村篤史（広報委員）、岡田康弘（事務局長）、取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ(株)

BERTHOLD ライフサイエンス・放射線防御関連の高性能機器を各国から輸入販売する、ドイツ法人の日本総代理店

御社の主な事業内容をお聞かせください。

弊社はドイツのベルトールド・テクノロジー社 (Berthold Technologies) のバイオアナリティック部門、放射線防御部門の2部門における日本総代理店です。本社にはもう1つ、プロセスコントロール部門という主にプラント関係の製品を扱う部門がありますが、こちらは日本では弊社とは別の会社を取り扱っています。

本社のベルトールド・テクノロジー社は、ライフサイエンス関係や放射線関係の測定機器を中心に70年以上の歴史があり、世界的な信頼を得てきたメーカーです。知名度も高く、その製品は高く評価いただいています。

また、弊社ではベルトールド製品以外の海外メーカーの最先端機器も幅広く取り扱っています。

お客様で最も多いのは研究施設で、官公庁や団体、大学、民間企業など数多くの研究施設に納入しており、その他、小中学校などにも納入実績がございます。

御社の取扱製品についてお聞かせください。

まずバイオアナリティック部門の製品についてお話します。主力製品の1つがルミノメーターという機器になり、遺伝子解析など様々な研究現場で使われ、溶液試料中の発光量を測定するものになります。小型で複雑な接

続などは不要なスタンドアロンタイプで、おかげさまで市場の約40%のシェアを占め“ルミノメーターはベルトールド社”という認識が広く浸透しております。

その他にも、先端の研究で活躍する製品を広く揃えています。やはり小型でスタンドアロン型のマイクロボリュームスペクトロメーター(分光計)から、様々な専用プレートリーダー、およびマルチモードプレートリーダー、マイクロプレートワークステーション、そしてプレートを高速で大量に洗浄できるマイクロプレートウォッシャーなどがございます。さらに、ELISA法やRIA法での測定を簡便に行うことが出来る自動化製品、ハイエンドイメージングシステム、HPLCラジオ検出器、ガンマカウンターに至るまで幅広く取り扱っていて、弊社全体では現在40製品ほどをラインナップしています。

放射線防御部門についても教えていただけますか。

放射線防護測定分野における様々な問題の解決策を提供しています。放射線を扱う研究施設が主な取引先で、例えば日本原子力研究開発機構の原子力科学研究所や、理化学研究所が運営する大型放射光施設SPring-8など、大規模な施設ともお取引させていただいています。



マルチマイクロプレートリーダー Tristar 3

発光、蛍光、吸光度アプリケーションの他、あらゆるアプリケーションに対応。



ルミノメーター Lumat 3

生物発光あるいは化学発光により発光している溶液試料の発光量を測定する装置。



イメージングシステム NightOwl 2

ミクロン領域から大型動植物までin vivo発光蛍光撮影を可能にしたイメージングシステム。



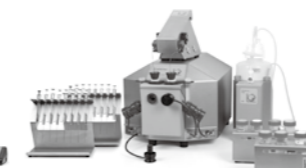
微量分光光度計 BioDrop μLite

0.5μLのサンプル量で測定可能な微量分光光度計。



自動細胞ピッキング CellCelector

培養細胞を顕微鏡で観測しながら自動クローニングが可能。複数の蛍光標識を識別し個別にピックアップ。



細胞フラックスアナライザー O2k-FluoRespirometer

ミトコンドリアや細胞研究のために開発された高分解能呼吸モジュラーシステム。



放射線防御関連機器 ベクレルモニター

サンプル中に含まれる放射能汚染測定。試料中の放射濃度をBq/L (Bq/Kg) に換算表示。厚労省「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」認定機器。



森林計測機器 レジストグラフ

樹木、木材、木材構造物の内部を迅速に非破壊で測定、解析するハンディタイプの検査機器。東京都街路樹診断の判定機器として認定。

## 経営資料

けています。さらには当然ですが、受注金額の大小で態度を変えるようなことはあってはならないと思っています。

実際に、お客様とお付き合いが続く中で、研究成果を挙げられ、大型物件をご購入いただくようになった経験は数多くしております。お客様と弊社ともに成長をしていきますように、日々こつこつと小さい事象にも誠実に対応するように心がけています。

**休日の楽しみや趣味はございますか。**

家族と過ごす時間が多いですね。我が家は中学、高校生の子供が3人なので、学校行事への参加や子供たちと外出したりします。週末は両親、兄夫婦家族と一緒に総勢11人で母親の手料理を嗜むことを何十年も続けています。これは私にとっても妻や子供にとっても、週末の楽しみとなっています。

また、2～3年程前から週末にゴルフを始めました。近々の目標はスコア100を切ることを目標として現在猛特訓中なのです。

**当協会へのご意見やご要望をお聞かせください。**

入会のきっかけは、ある企業の社長様からお勧めいただいたことでした。

科学機器協会では情報発信の他、社員教育の場や意見交換の場に最適な環境を用意していただけるということでした。これまでは同業種の方と意見交換する場は少なかったので、交流の場を広げたいと思っています。

コロナ禍で色々な行事が中止となっている旨、これからの協会懇親行事には弊社取り扱いのコロナウイルス検査キットの提案もさせていただきたいと思います。



吉田社長(左列手前から5人目)を囲む社員と家族、2018年グアムにて

## 経営資料

ベルトールド社も新しい分析技法ルミネッセンス(発光)測定器の開発に取り掛かり、1980年に世界初のルミノメーターが誕生しました。日本でも、ベルトールドの名と高精度の品質が評判となり、年間100台以上の好調な売れ行きでした。先ほども触れましたが、現在ルミノメーターには特に高い評価をいただいています。

1992年に初代・金子社長と商社勤務時から付き合いがあった、私の父である吉田信雄(現会長)が2代目の社長となりました。業績は堅調に推移し、その中で私は営業担当として勤務しておりました。

そして2015年に私、吉田忠嗣が3代目の社長となり現在に至っています。創業当初は2、3名だった従業員も現在は12名となり、拠点は東京本社と大阪営業所です。

**コロナ禍以前は、本社に行くことは多かったのですか。**

私どもが本社に行くことも、本社のスタッフが日本へ来ることも結構頻繁にありました。ちなみにドイツ本社はシュツットガルトから車で2時間程度走った、フランスとの国境にほど近い場所にあります。

さらにアジア地域のみ販売代理店の会議なども開催され、コロナ禍前のアジアミーティングは中国・南京で行われています。

また、弊社の技術者も頻繁にドイツ本社をはじめ海外に行き、製品のレクチャーやトレーニングを受けてきました。日本での販売後もメンテナンスは欠かせませんので、ベルトールド社の製品についても、他の海外メーカーの製品についても、現地で研修を受け、万全の保守メンテナンスが行える体制を整えています。

コロナ禍の現在は海外との連絡はリモートで行っていますが、概ねコミュニケーションに問題はありません。本社との密なコミュニケーションは私自身も非常に大切にしています。社長就任前から、これまで非常にいい関係を築けていると感じています。

**そうした日々の仕事の中で、強く喜びを感じられた出来事があればお聞かせください。**

科学機器を取り扱う企業の方々は、私と同じような思いかもしれませんが、研究成果のニュースや論文発表などにユーザー様のお名前を拜見した時や、さらにはユーザー様から「弊社製品が研究成果に大きく貢献

してくれた」というご連絡をいただいた時は、非常に嬉しく感じてまいりました。

つい最近も、某大学で新型コロナウイルスについての研究成果が報告されましたが、弊社が納入したELISA法の測定を簡便に行う製品が使用されました。しかも弊社スタッフが研究の場に通い詰めてバックアップをさせていただいています。新たな研究成果に弊社が貢献出来た事を非常に嬉しく感じます。これから正式な論文が投稿されるそうですが、製品名が論文にも掲載される予定だと聞いています。

私も数年前までは、いち営業担当として現場にいて、ユーザー様から数多くのお礼のお言葉を頂戴する機会がありました。それらの経験が今の私の励みとして残っていることは間違いございません。

**これまでに困難だった出来事はございますか。**

今も深刻な状況が続くコロナ禍での業績の低下です。弊社はこれまで、各年度の売上に大幅な減少はなかったのですが、新型コロナウイルスの影響は顕著で、2020年4月、5月頃の売上が非常に下がりました。理由としては、輸入する製品が遅延する、さらにお客様側での受け入れ体制も整わなかったことがあげられますが、簡単に言うと通常の営業活動を行えない状況に多々迫られたということです。

しかし、そうした中でありがたい機会がございました。先にも申し上げました、新型コロナウイルスの抗体検査キットの販売権をいただけることになったのです。岩手県の盛岡市にあるセルスペクト株式会社という機器開発・製造メーカー様で、長年お付き合いをさせていただいておりました。この検査キットの販売により、売上を大きく助けていただきました。これはひとえに長年の関係構築が出来ていたからだと思っています。

企業は生き物で、良い時悪い時がその時々で発生します。芯に持つものを変えることなく、誠実に事業を続けていけば、きっと救われると確信した出来事でした。

**御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。**

経営理念は「世の中から必要とされる商品・サービスを創造し、人と社会に貢献し続ける」です。これは弊社が何のために存在するのかを掲げたものです。そして

経営理念を目指す上で踏みはずしてはならない事として、4つの基本方針を定めています。「先端技術を提供し、期待を超える提案でお客様の悩みを解決し続ける」「お客様と一生お付き合いできる関係作り」「社員全員が成長し続ける機会を提供」「希望と未来が描け、永続する会社を目指す」の4つです。経営理念と基本方針は、私が社長に就任した時に会社の方針を改めて明確にするために策定しました。

**御社の課題や、今後の目標をお聞かせください。**

5年後のビジョンとして「売上高2倍」「それぞれの製品でシェア20%」そして「社員がいきいきと仕事できる会社」を目標に掲げています。現状、製品ごとのシェア率は異なっていますが、いずれの製品でも20%以上のシェアを目指せる品質の良さがあると考えています。

その根底として、やはり企業は日々成長していく必要があります。中で働く社員もそれぞれ家族がいて、社員自身も家族も成長するわけですので、社員の固定費、つまり給料や報酬などを上げていかねばならないと思っています。そのように会社を発展させていくためには売上の目標は必須だと考えています。

そしてもう1つ「社員がいきいきと仕事ができる」というのは当然の目標ではありますが、社員もその家族も含めて皆がいきいきと仕事が出来て幸せになることが出来れば、その気持ちはさらに、ユーザー様にも伝わっていくものと信じております。

2021年夏には東京都墨田区押上、東京スカイツリーから歩いて10分程度の場所に新社屋が完成しますが、これも社員がいきいきと仕事できる環境というビジョンの一環として考え、実行に至りました。

**吉田社長のプライベートについてお聞きます。吉田社長の「座右の銘」はございますか。**

座右の銘は「積小為大<sup>せきしょういだい</sup>」です。「小さい事が積み重なって大きな事になる。だから、大きな事を成し遂げようと思うなら、小さい事をおろそかにしてはいけない」という意味で、江戸時代の農政家・思想家である二宮尊徳の言葉です。

人はついつい小さな事をおろそかにしがちです。メールでの返信ひとつをとっても、丁寧に対応することを心掛